

3課 イエス様のたとえ（マタイ 13:10-13）

フォーラムのポイント 「あなたがた と かれら」

イエス様が、なぜたとえを使って話されたかを直接語られたのがマタイ 13:10-13 の内容です。

マタイ 13:10-13

- 10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」
11 イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国奥義を知ることが許されているが、彼らには許されません。
12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。
13 わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。

ここで言われているように、二種類の人がいます。

「聞いて、見て、悟る人」 = 「あなたがた」と
「聞いても見ても悟ることができない人」 = 「彼ら」がいます。
ここで「あなたがた」と言われているは弟子です。
「彼ら」はここに集まっていた「たくさんの群衆」です。

13 章のイエス様がたとえを語られた前の12章の最後の部分で、「わたしの母とはだれですか。また、わたしの兄弟たちとはだれですか。」つまり、だれがイエス様の家族なのかと言われます。そして、天国の家族とは、この福音を悟れる人たちだと、13章でたとえで話されました。

13章の1節2節には、「その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。すると、大せいの群衆がみもとに集まった…」と書いてあります。この「大せいの群衆」の中にみことばを悟れる人と、悟れない人がいたのです。そこで、弟子たちが「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」と尋ねたのですが、その大せいの群衆の中にいる「彼ら」は悟れない者で、「あなたがた」は悟る者だということを言われました。



レムナントたちには、少しむずかしいかもしれないのですが、神学的な用語で「選択」と「遺棄」という内容があります。「選択」は「あなたがた」で、「遺棄」は「彼ら」のことです。

じしょ いみ
辞書での意味は

「選択」とは「多くのものの中から、よいもの、目的にかなうものなどを選ぶこと」
「遺棄」とは「捨てて顧みないこと。置き去りにすること」です。

ここでみなさんに知ってほしいのは、大ぜいの群衆の中に「選択」と「遺棄」があるということです。



今日の教会の中にも、そのような人々がいるのです。教会の中にいる人は「選択」された人で、教会の外にいる人は「遺棄」された人だということではありません。教会の中には、「選択」と「遺棄」がともにいます。私たちは、それがだれなのかは知ることはできません。

たとえを語られた最後には、「終わりの日には、それらを分別する」と言われています。

イエス様がたとえを語られた理由、2つ目はマタイ 13:34-35 にあります。

34 イエスは、これらのことのみな、たとえで群衆に話され、たとえを使わずに何もお話しにならなかった。

35 それは、預言者を通して言われたことが成就するためであった。

「わたしはたとえ話をもって口を開き、世の初めから隠されていることなどを物語ろう。」

「世の初めから隠されていることを知らせるために」と言われています。

「世の初めから隠されていること」とは、なんでしょうか。それは、イエス・キリストご自身のことです。

それゆえ、たとえとして語られることの内容のすべては、イエス・キリストと天国の福音に関してなのです。



ですから、マタイ 13 章には「天の御国は…」ということばで始まるたとえ話が多くあります。

24、31、33、44、45、47節、ここには「天の御国は…のようなものです」と言われ、たとえで説明されます。

これが3課で「たとえを語られた理由」2つ目のことです。

このことをすべて詳しくお話しするには、内容が多すぎるので、たとえの核心的な部分だけをお話しします。

最初にお話ししたように、たとえを通して、「あなたがた」と「彼ら」つまり「選択」と「遺棄」についてあきらかに言われています。

種撒きのたとえで4種類の地に落ちた種のことを語られています。



その中で、岩地、いばらの中に落ちた種があると言われますが、これは私たちが、岩地やいばらのような地であると言われているのではありません。私たちの中にある岩やいばらを取り除きなさいと言われているのでもありません。私たちが良い地にならなければならないと言われているのではないのです。

岩地、いばらのような地の人、良い地のような人は、最初からいるということです。

26節からは、毒麦のたとえがあります。

「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。」と言われています。神様が、すでに世の初めから選ばれた天の御国に入る者たちを、この地に植えられたということです。

そのあと聖句を見ると、ある日、見たらそこに毒麦が育っていたのです。

28節を見ると「主人は言った。『敵のやったことです。』」つまりサタン（悪魔）がやったのです。

良い種と毒麦は、最初から区別されていました。

残りのたとえを通して私たちが悟るべきなのは、私たちの救いは、私たちの熱心、努力など、私たちが義と認められることは、ひとつもなく、すべては神様の選択と、神様ご自身の熱心によって救われたということです。それをたとえて説明されているのです。ですから、私たちが関心を持つべきなのは、だれが良い地なのか、だれが岩地、いばらの地なのかということではありません。岩地やいばらのような地でしかない私を、神様が良い地として召してくださったことに感謝すべきです。

ローマ3:10には「義人はいない。ひとりもいない。」と言われています。Nobody、私たちの状態です。

ローマ3:10-12

10 それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもいない。

11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。

12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。
ひとりもいない。」



ローマ10:23-24

23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。

私たちは罪人としてこの世に来ました。

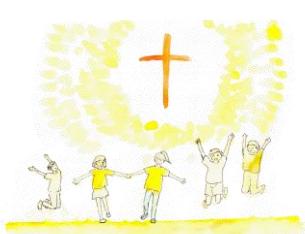
私たちの救いは、神様の恵みにより、キリスト・イエスの十字架によってなされるのです。

すべての人が岩地であり、いばらの地でした。神様が私たちを選択してくださって、良い種が育つ良い地としてくださったのです。

マタイ13:51に大事なことが出て来ます。

51 あなたがたは、これらのことのみなわかりましたか。」かれ彼らは「はい」とイエスに言った。

福音のみことばを悟ることができ、イエスがキリストだと告白し、聖霊が私の内にともにおられることを信じる私たちは、この世を生きる中で、その救いの恵みに感謝と賛美をささげる生活をすればよいのです。そのような人を通して、伝道の門、宣教の門を神様が開いてくださいます。



私たちが「あなたがた」とイエス様が呼ばれるところに属していることに感謝する一週間になりますように。